



# 藤棚

## 44号

世田谷区深沢 4-10-1  
東京学芸大附属世田谷小学校内  
青山附属同窓会

<http://www.u-gakugei.ac.jp/doso/>

青山附属同窓会 検索

発行人 森 昭彦  
編集人 齊藤研一

## 同窓会の現況

幹事長 森 昭彦

今年も一一五名の新入会員を迎えました。その新会員が

主役の卒業の会に出席いたしました。卒業の会には幹事長として毎回参加させて頂いておりましたが、そのたびに子供達のはつらつとした創意あふれる姿に感動を新たにし、全国の小学校でこのような形で卒業生を送り出すことが出来れば良いのと思っております。「卒業の会」と呼んでいるのは、子どもたちを主役として、卒業生を在校生と教職員全員で温かく送り出そうという現れでしょう。ここには、式典・儀式であるからかくあるべし、というような形式主義と

は無縁な、のびのびとした教育の姿を見ることが出来ます。

さて、新入会員を含めて、同窓会名簿に掲載されている総会員数(逝去者も含む)は一四、九八七名(明治時代の卒業生一、三一九名、高等科卒業生一、三〇〇を含む)です。このうち、名簿データベースで管理している人数は、明治時代の卒業生と高等科卒業生を除いた一三、六八七名で、内、生存者は九、七九六名、住所の判明している会員は七、〇四四名となっており、72%の方の住所が分かっております。

今年度は新しい名簿が発行されました。五年分の会費五、〇〇〇円を納められた方と、会

費免除会員(一九四四年以前の卒業生と二〇〇三年以降の卒業生)には、名簿をお送りしております(名簿不要を申し出られた方は除きます)。

同窓会の最大の仕事は、同窓生名簿の維持管理と言っても過言ではありませんが、最近では、住所などの不掲載を希望される方が増えており、いつまで名簿の発行を続けられるか、他校の同窓会では名簿の発行を止めてしまった所も少なからずありますので、若干の危惧を抱いております。

例えば不掲載を希望される場合でも、住所、電話、勤務先などが変更になった場合は必ず同窓会にお知らせ下さい。同窓会のホームページ上からも簡単に手続きができるようになっております。その際に、住所・電話番号等を名簿上に掲載するか不掲載かを選べる事ができます。最近では、クラス会を開くので、ク

ラスの名簿を出力してくれないかというご要望も来るようになってきましたが、逆にクラス会などで最新の情報が分かった場合は、是非、同窓会までお知らせ下さい。

同窓会から会報などの印刷物をお送りする際、原則としてご住所にお送りしておりますが、特に若い方の中には転勤などが多いためか、送付先をご実家に希望される方も少なくありません。しかし、郵便局に転居届を出されていて、有効期限(一年)がすぎていると、ご実家様方でお送りした場合でも、宛先人不明で戻ってきてしまう例が多々あります。

本年度から平成二十八年までの五年分の会費の納入を、昨年の名簿発行のための全数調査の際にお願いいたしました。まだお納めでない方は、この会報に同封してある会費納入用の振替用紙をご利用の上、是非お納め下さるようお願いいたします。

四年前に、どんぐり山の遊具の更新のために小学校の教育後援会が寄付を募りました。同窓生からもたくさんの方々が集まり、その際に寄付されたプレートが、ようやくできあがりしました。写真で見ると、遊

具の側面に取り付けてあります。

この春、附属小学校の歴史に関わる大きなできごとがありました。古い同窓生には大変懐かしい下馬校舎が取り壊されたことです。昨年九月に下馬校舎の見学会を行いました。見学会に集まった約九〇人の方々は、その場で初めて校舎が取り壊されることを知らされました。見学会では、当時校舎を使用していた放送大学世田谷学習センターの秋鹿先生が直々に内部をご案内下さり、屋上にて校舎の建築上の特徴や、師範学校の校舎(現在の附属高校校舎)との対比などもお話し下さいました。



どんぐり山のプレート



東日本大震災で被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

附属小学校の近況をお知らせいたします。

### 【先生方の異動】

#### ☆お送りした先生

#### ▽大井田義彰先生

学校長としての三年間の任期を終え、大学に戻られました。

明るく気さくな人柄で子どもたちから慕われた校長先生です。スポーツが好きで、特にサッカーは自分のフットサルチームをお持ちになるほどでした。時々子どもたちと一緒にサッカーを楽しんでいる姿が印象に残っています。専門は近現代の国文学で、樋口一葉の研究者としてご活躍ですが、世田谷小学校発祥の地（千代田区内幸町）は一葉生誕の場所と重なるという偶然があり、先生とのご縁を感じました。

今後のますますのご活躍をお祈り致します。

副校長 藤田留三丸

2012

#### ▽鈴木聡先生

「私は一生物学が子どもたちに向けて残されたメッセージです。この言葉を自ら証明するように、在職中は自己研鑽に励まれました。長く研究部に所属し、近年の学校研究では推進役として重責を果たされました。専門の体育では指導法研究や教材開発に力を注がれ、理論と実践を結びつけた多数の優れた実践研究を成果として残されました。

十四年間の在職でしたが、この春から東京学芸大学芸術・スポーツ科学系に配置換えとなりました。これからは、未来の優秀な教員を育てるべくご活躍なさるでしょう。

#### ▽羽仁克嘉先生

本校には九年間勤務され、この度、東京都の公立小学校に赴任なさいました。理科教育が専

門で、子どもたちの興味関心を高めるための教材開発や、指導法の改善に熱心に取り組みされました。温和な人柄そのものの優しい語り口が子どもを和やかにさせる、何ともいえない魅力がある先生でした。

多才な先生で、特に音楽は数多くの楽器を弾きこなしました。中でもチューバは玄人はだして、子供たちの前で披露したときにはみんなが驚きました。豊かで楽しい経験を子供たちにたくさん与えてくださったハニー（羽仁先生の愛称）に感謝し、今後の活躍をお祈りいたします。

#### ▽松本大介先生

「はじめに子どももありき」の言葉を日常の教育活動で体現しようと努力された先生でした。感性豊かに物事をとらえ、常に子ども目の視線を意識して考え判断することができ、子どもの味方でした。社会科教育が専門で、世の中の出来事や歴史、地理に至る広範なフィールドを、子どもの学びに寄り添いながら教育していく姿勢は、共感を呼ぶものでした。

趣味は旅行。行く先々から持ち帰るお土産はユニークなものばかりでした。中でもシラスキャンディは、教員室に衝撃を

与えました。

五年間の交流期間を終え、東京都の公立校に戻られました。ご活躍をお祈りしています。

#### ▽瀬川知孝先生

専門の国語教育に関する豊富な知識を活用して、楽しい言語活動を実践して下さいました。特に教材研究には力を注ぎ、子どもたちの「言葉」への興味関心を高めようと努力なさいました。

本と音楽を愛し、時にロックンロールへの熱い思いを語り、趣味のベースギターについての蘊蓄を披露する姿は、日頃の静かな印象と好対照で、人間としての魅力でもありました。若さと情熱を武器に新天地で大活躍して下さい。

#### ☆お迎えした先生

#### ▽坂井俊樹先生

新校長としてお迎えしました。東京学芸大学人文社会科学系人文科学講座・社会科教育分野教授との兼務です。

以前、附属世田谷中学校に社会科教員として勤務の経験がありますので、同窓会員の中にはご存知の方もいると思います。子どものこと、現場のことをよく理解してくださるので、大変心強いです。

#### ▽越後佳宏先生

一昨年まで五年間本校に在職していましたが、この度、東京都の公立小学校から再度赴任なさいました。専門教科は算数。現職研修会や研究発表会でも、また本校算数部の代表として活躍してくださるでしょう。五年の学年主任および青山会のクラブを担当しています。

#### ▽稲垣悦子先生

東京学芸大学附属小金井小学校からの異動です。「明るく元気」というフレーズがびつたりの先生です。和やかな雰囲気の子どもに安心感を与えます。一年生の担任です。研究教科は算数です。人には優しく研究には厳しくというスタンスには、ベテラン附属教員の気概を感じます。







# 下馬校舎の思い出

同窓会では、昨年十月八日に、

下馬校舎の見学会を実施しました。冒頭の森幹事長の記事にあるとおり、図らずも校舎取り壊しを控えた見学会の開催ということになってしまいました。このような機会を設けることができ、本当に良かったと思っております。

本号では、下馬校舎が完成したときの新生であり、建築史の専門家でもある平井会長をはじめ、下馬校舎で教鞭をとっておられた伴先生や、見学会に参加された同窓生の皆さんから思い出の文章を寄せていただきました。

## 思い出の校舎

会長 平井 聖



私は、七十五年七カ月前、完成したばかりの下馬の校舎の正門をくぐった一人です。

当時の学校名は、東京府立青山師範学校附属小学校。それまで学校が、港区青山にあったので青山師範学校という校名がついたのだと思います。

入学試験は、青山にあった旧校舎でした。試験の最後は、くじ引きでした。

入学したのは、完成したばかりの真新しい下馬の校舎でした。新しい校舎を背景に、ベルトのついた、袖に赤い筋の入っただぶだぶの制服を着て担任の沼田先生と写っているクラスの仲間との写真が、入学当初の大切な記念です。

私は、入学してひと月で父の転勤のために長崎の師範付属に転校し、三年生からまた下馬に帰ってきました。それ

から卒業までの担任は加藤嘉男先生でした。

三年から卒業までの思い出は、加藤先生の思い出と重なります。裏濾し器の輪っばで作った蟬の鳴く原理を見せるための発音器の模型は、理科室での思い出です。音楽室の思い出は、

吉田照十方先生の授業より、当時はまだ珍しかったハーモニカを主体とした器楽アンサンブル。音楽が専門ではない加藤先生の編曲だったはず。本立てを造った工作室。工作も先生のお得意の分野でした。二、三人の友達と夕暮れまで残されての跳び箱の特訓は、運動神経の乏しい私の夏の校庭の思い出です。校歌「楽しきは青山」を何度も踊ったのも、校庭でした。その校庭に、今はテニスコートが出来、樹木が茂っています。たしか、昇降口を入ってす

ぐの小部屋に、昼になるとパン屋さんが来ていたと思います。子供だった私には、どういふ人たちがパンを買うことが出来たのかわからなかったのですが、お弁当を持ってきていた私には、パンを買ったのです。忘れられない思い出の一つです。

門に入って正面のいかめし入り口は、扉が開いているのを見た覚えがありません。どういふ時に開いたのでしょか。この扉から出入りしたのは、誰だったのでしょか。十一月の秋の大学祭に、放送大学の学習センターになっている懐かしい校舎を久方ぶりに尋ねましたが、開いたのを見たことがなかった正面の入り口に、今はバリアフリーのスロープがつき、ドアがいつぱいに開いていました。北側に広い明り取りの窓のある図画室は、階段教室に変わっていました。その前の廊下まで、階段状に変わっていました。

木の部分が木地の見える濃い茶色に塗られて落ち着いた霧囲気だったインテリアは、薄緑色のペンキで塗られ、全く印象が変わってしまいました。ステイールの窓のサッシは、アルミサッシに変わっています。しかし、廊下や階段の床は昔のままでした。

この校舎も、七十六年経って、二〇一二年の三月にその使命を終えるとのこと。この校舎と共に小学校生活を始めた卒業生の一人として、当時の典型的なスタイルを持つ校舎の保存運動を考えると、いわけではありませんが、音楽室などがあった西端の特徴ある半円型の部分は、世田谷区の公園になった時に切り取られてすでになく、敷地が回復しない限り復元を考えると、さうができません。さらに今後の新しい活用を考えると、さらに改造せざるを得ないでしょう。

見学をさせていただき、大挙の催しとして、校舎の建築としての評価の講演とシンポジウムの会に参加させていただいて、懐かしい校舎は、思い出の中に美しいままに残した方がいいのではと思ったのでした。



## 下馬校舎の思い出

元副校長 伴憲三郎

先日同窓会から下馬校舎の

見学の案内があり、懐かしい校舎の見学ということで見学会に参加しました。小学校が深沢に移転して以来、前の道路を通る度に思い出多い校舎を見上げていました。したがって、この度の案内は大変嬉しかったです。当日は下馬校舎で学んだ多くの卒業生が参加され、沢山の卒業生の方々にお会いでき、とても楽しかったです。ただ、当時の教師の方々はご他界された方が多く、教師として参加したのは私一人で寂しく、約六十年の時の流れを感じました。

懐かしい校舎一階から見学して回りました。正面玄関を入り、当時の職員室・校長室の前の廊下を通って児童昇降口へ行きました。改めて校舎が重厚な立派な建物で、天井の高いのに素晴らしいと思いました。二階・三階と見て回り、屋上に上がりました。学校の周りは、建設当時は畑が多かったのが、今は住宅がぎっしりと立ち並んでいて、時の流れ

を感じました。

私は、師範学校の学生の時、昭和十九年の一月から三月迄、教育実習生として附属で五年生の沖山学級で実習しました。当時スチーム暖房の施設は有りましたが、戦時中で使用されず、各教室に大型の火鉢が置かれ、寒い冬を凌ぎ学習していました。教育実習生は、教室の後ろのベンチのような椅子に座り、授業を参観したり、記録の整理をしていました。当時と校舎が大きく変わつた所は、校舎の南西の部分の丸くなった部分が無くなつていたことで、私にとってはとても悲しかったです。その部分には、三階には音楽室・視聴覚室があり、二階には理科第一教室・準備室・理科第二教室があり、一階には給食調理室・保健室がありました。昭和二十二年から附属小学校の教師となり、担任をしたり、理科の専科教師をした時に常時いた所で、当時の様子が見られず残念でした。

今、深沢の校庭には立派な

藤棚がありますが、この藤の樹は学校創立以来の由緒ある樹で、学校が青山にあった当時、附属小学校の校庭にあり、学校が下馬に移転した時、樹は青山から下馬に移植され、よく藤棚の下で授業をしたことがありました。学校が下馬から深沢に移転する時、藤の樹が老木で、移植は難しかったのですが、学校のシンボルの樹であり、学校と共に存在してきた樹を見捨てることができず、出入りの植木職人の梅沢さんの努力で無事深沢に移植することができました。今も深沢の校庭で毎年春に美しい花を咲かせ、子供達を見守っています。附属小学校児童の保護者だった門田ゆたかさんが作詩され、昭和十二年卒業の團伊玖磨さんの作曲の『藤棚のうた』は素晴らしい歌で、これからも由緒ある藤を思い歌い継がれていくことと思います。本当に由緒ある藤が深沢に移植されよかつたと思っています。

下馬の立派な校舎を去ることは、偲びがたいことでしたが、学校が青山師範から第一師範となり、戦後都内の師範学校が統合され、東京学芸大学になった時、大学の校舎が

不足し、附属小学校の校舎も必要になり、移転が要求され、やむなく移転する場所探しが行われました。当時等々力に住んでおられた保護者の菅田さんのご努力で、深沢の農地を買収することができほっとしました。ところが、つくる校舎は木造校舎と聞いて一同驚き、なぜ立派な校舎を明け渡し、木造校舎に移らなければいけないのか、不合理に納得できず、校舎の明け渡し、移転反対を決議しました。当時、鉄筋コンクリートの建物は防災上の観点から、山の手

線の内側は鉄筋コンクリートの建物が必要であるが、郊外は別であったようで、納得がいかず反対を続けました。その後、文部省を説得し今の校舎ができたのは、大正四年卒業の迫水久常さんと保護者の方々のご努力のお陰で感謝しています。

まだまだ下馬校舎の思い出は尽きません。語り継ぐことが多々あります。本当下馬の校舎は立派で、何時までも思い出の多い場所として残しておきたいです。



朝礼台でお話しされる伴先生

## あの頃の思い出

昭和十五年卒  
武藤 泰夫

私は十七年前から梅が丘に住んでいますので、自転車で何度か下馬校舎の前を通って懐かしく思っていました。今回、見学会で門の中に入れるというので参加しました。

私達の学年は、三年生まで青山の校舎で学び、四年生からピカピカの新校舎に通い始めたのです。私は、姉と兄二人が青山師範附属小学校出身ですが、いずれも青山で卒業しています。家は麻布笄町でしたので、青山時代は徒歩で通いましたが、四年生からは都電で渋谷へ出て、東横線で登校しました。下校時は、時々、今はない並木橋駅で下車して歩いて帰りました。

下馬校舎は、碑文谷駅（現在の学芸大学駅）から家並みを抜けた坂の上に立って見ると、正面に堂々と建っています。坂の上から学校までの道の両側は畑が半分以上を占めていました。

今回、校舎の屋上から周囲を見渡すと、当然のことながらピッシリ家に囲まれている

した。私たちの在学中は、校舎の周りにはあまり大きな樹木はありませんでしたが、今回見ると、緑に囲まれ屋上より高い木がたくさんあるので、七十年の歳月を経たことをつくづく感じました。

また、青山時代から親しんだ藤棚がなくなり、公園になっているのは残念でした。というのは、私たち昭和十五年卒の学年は、男子一・二組、女子組の三組合同で同期会を作り、戦後の一時期を除いて毎年秋に会合を開き、今年も二十三人が集まりましたが、この会の名前が「藤棚一五会」というほど藤棚に親しみがあつたからです。

また、今回、脚をのばして



学芸大学駅まで行きました。碑文谷公園と駅の間がかなり離れているのに驚きました。私は小学生のころ悪戯鬼でしたので、下校の際よく碑文谷公園に寄って池でボートに乗って遊んだのですが、その頃の記憶では、公園と駅はすぐそばだったように思っていたからです。

以上、七十余年前の思い出を書かせていただきました。

## 「下馬校舎見学会」に参加して

昭和三〇年卒  
世古口 眞在子

二〇一一年発行の「藤棚」四二号に掲載された「下馬校舎今昔」の写真を見て、懐かしさを覚え、地方在住の為、同窓会にも出席したことは無いのですが、二十数年前まで実家の在った下馬近辺も訪ねてみたいと思いい、妹を誘って「下馬校舎見学会」に参加しました。卒業以来と言ってよい再訪でしたが、七十五年前に建ったという、あの懐かしい校舎がほとんど姿を変えず現役で頑張っていることに感動すると共に、校内に植えられた樹木がうっそうと大きくなっている姿に五十数年の歳月を感じました。

最初に案内していただいた屋上から眺めた校庭はテニスコートになっており、藤棚もカチドキ？山も姿を消していました。体育館は昔の儘の姿で健在でした。工作の授業で作った風を屋上で上げたことや、ドッジボール大会の前には給食を食べ終わると急いで屋上に上り、練習場所を確保したこと等、次々と思ひ出しました。校内の廊下を歩いていると小学生時代にタイムスリップしたような気分になり、思ひ出すクラスメートの顔も小学生の顔をしていました。

校庭の朝礼台は昔の儘でしたが、「マジメ」の額は無く、今は深沢校舎に保管されているそうです。また思いがけず、八〇歳を超えられた伴先生が台上がられ、お元気に小学校の歴史を語って下さったことは参加者への嬉しいプレゼントとなりました。最後に講堂を見学し、その後、妹と実家の在ったあたりまで通学路をたどり、思ひ出を語り合いながら帰路につきましました。

この度、下馬校舎の取り壊しが決まったことを知り、今回が最後となった「下馬校舎見学会」に思い切って参加して良かったと、妹とも話したことでした。



平成23年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日) 青山附属同窓会 会計報告

1. 同窓会基金(単位:円)

収入	金額	支出	金額	残高
前年度より繰り越し	3,294,406			
銀行利息 三菱UFJ信託銀行定期預金	5,200			
三菱UFJ信託銀行普通預金	8			
合計	3,299,614		0	3,299,614

2. 経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰り越し	11,527,382	藤棚印刷費	482,638
会費(郵貯銀行振替口座) 452名	2,260,000	名簿調査票回収入力等	248,890
会費(コンビニ支払分) 553名	2,765,000	新卒生名簿印刷	58,660
会費(新卒入会金) 116名	1,160,000	回線使用料	64,683
100周年記念募金口座より (*)	268,410	データ管理費	165,060
銀行利息 三井住友銀行定期預金	366	事務手数料	115,600
三井住友銀行普通預金	273	藤棚発送費	469,985
ゆうちょ銀行総合口座	1,087	名簿発送費	7,140
平成23年度収入合計	6,455,136	通信費	45,140
		事務用品費	7,590
		備品・修理費	0
		慶弔費	10,000
		交際費	8,380
		支払手数料	172,527
		交通費	7,740
		消耗品費	0
		会議費	6,886
		卒業記念品	349,125
		会費返金	0
		懇親会	66,826
		本年度支出計	2,286,870
		次年度へ繰越	15,695,648
合計	17,982,518	合計	17,982,518

3. 資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行定期預金	3,250,000
三菱UFJ信託銀行普通預金	49,614
合計	3,299,614
経常会計分	
三井住友銀行通知預金	1,500,000
三井住友銀行定期預金	3,020,205
三井住友銀行普通預金	4,702,695
ゆうちょ銀行総合口座	3,476,413
ゆうちょ銀行振替口座	2,973,810
ゆうちょ銀行振替口座(懇親会)	23,314
現金	-789
合計	15,695,648
基金+経常会計合計	18,995,262

備考) 名簿調査票回収入力等は、調査票の返信用郵送料¥213,050を含む。支払手数料には、コンビニ収納の手数料¥96027、郵貯振替手数料¥48,860を含む。

(\*) 昭和51年の100周年の際に同窓会で寄付を募り、学校に資料館を寄贈しましたが、その際の募金のために開設した三井住友銀行の口座が精算されず、その後の会計担当者にも引き継がれることなく休眠口座となっていました。昨年10月に銀行から同窓会宛てに連絡があり、判明しました。とりあえず経常会計へ繰り入れることとしたものです。

会計: 野口 貞義, 瓶子 可南子 監事: 清水 嘉男, 吉原 重和 監査報告: 帳簿類、会計報告書を監査の結果、適性であることを認めます。 監事: 清水 嘉男 印 吉原 重和 印

《名簿の訂正》

名簿発行後に誤りが判明いたしましたのでお詫びして訂正いたします。

1943年(昭和18年)2組 天野 曄 様  
逝去欄から削除し名簿欄に追加  
天野 曄  
177-0053 練馬区関町南 2-25-35  
03-3929-3392

1947年(昭和22年)2組 西澤眞澄 様  
名簿欄に追加  
西澤眞澄  
368-0072埼玉県秩父郡横瀬町横瀬7291-60  
0494-27-0282

1955年(昭和30年)1組 世古口 眞在子 様  
誤: 樋口眞在子  
正: 世古口眞在子(樋口)

- ◆ 本年度の同窓会役員
- 会長 平井 聖(昭和一七年)
- 幹事長 森 昭彦(三〇年)
- 会計監事 吉原重和(三五年)
- 松本洋典(平成 八年)
- 常任幹事 清水嘉男(昭和二〇年)
- 福西武子(二〇年)
- 小野聖穂(二九年)
- 平山昭男(三一年)
- 古川 一郎(三一年)
- 幣原 廣(三七七)
- 木下智子(四〇年)
- 長岡寿昭(四一年)
- 浅尾博之(四五年)
- 福本彩子(四七年)
- 岡市典子(五三年)
- 斉藤研一(五四年)
- 野口尚志(六三年)
- 瓶子可南子(平成八年)

◇ 校舎の取り壊しという残念なお知らせをすることになってしまいました。前号に引き続き、下馬校舎についての特集です。

◇ 本号に文章をお寄せくださった栗原先生は、正式には「主幹教諭」という、校長先生・副校長先生をサポートするお仕事をされています。お忙しいところ、ありがとうございます。

◇ 同窓会名簿は、お手元に届きましたでしょうか。何かご意見・ご要望がありましたら、同窓会までお寄せ下さい。(編集者・斉藤)

編集後記

青山附属同窓会ホームページ http://www.u-gakugei.ac.jp/doso/

青山附属同窓会

検索